

令和 8 年(2026 年) 第 1 回

登録標識・路面標示基幹技能者講習(路面標示)

修了試験問題

修了試験実施日：令和 8 年(2026 年)7 月 17 日

修了試験実施場所：富士教育訓練センター

登録基幹技能者講習実施機関：一般社団法人全国道路標識・標示業協会

注意事項

- ① 携帯電話は電源を切り、カバンの中に入れてください。
- ② 試験問題は係員の指示があるまで開けないでください。
- ③ 解答用紙に受講番号と氏名を明記してください。
- ④ 正解と思う番号を解答用紙に記入してください。
- ⑤ 試験開始から 30 分が経過するまで及び試験終了 10 分前から終了時刻までは退出することができません。
- ⑥ 質問、体調不良、退室希望等は静かに挙手をしてください。
- ⑦ 試験問題は終了後に持ち帰ることができます。
- ⑧ 試験終了の合図があったら筆記用具を置き係員の指示に従ってください。
- ⑨ 解答は試験終了後約 1 週間後に全標協ホームページに掲載します。
- ⑩ 合格発表は令和 8 年(2026 年)8 月 28 日に全標協ホームページに掲載します。

一般社団法人全国道路標識・標示業協会

問 1

登録基幹技能者に求められる能力に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 不測の事態の発生に対しても一生懸命に取り組み、指導者としての自覚をもって問題解決できる。
- ② 多くの理屈を言い立てるよりも、まず勇気を出して実行する方が説得力は大きい。人は後ろからついてくる。
- ③ 最良の結論を導き出すために、主観的な観点で、分析力、判断力を有し、物事の判断ができる能力を有する。
- ④ OJT を行う能力を有し、未熟練な作業から一般作業へレベルアップさせる、調整能力を有する。

問 2

建設キャリアアップシステム(以下 CCUS という。)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① CCUS では、技能者の就業履歴や保有資格が IC カードを通じて蓄積され、技能者の能力を客観的に評価することができる。
- ② レベルの付与は、現場の状況や元請企業の判断によって、柔軟に決定して運用することができる。
- ③ CCUS における能力評価では、レベル 3 は職長・熟練技能者が目安とされ、一定の指導力や現場管理能力を備えた技能者として位置づけられる。
- ④ 登録基幹技能者は、能力評価基準の最高位であるレベル 4 の要件として扱われ、技能者の中でも特に高度な技能と経験を有する者として評価される。

問 3

コンプライアンス、法令遵守、OJT に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設産業が持続できるように、令和元年 6 月に建設業法が改正され、その内容は「著しく短い工期の禁止」「監理技術者の専任義務」「下請代金の支払方法」「主任技術者の配置義務の合理化」である。
- ② 発注者が、請負人に対して契約した仕事を完成することを約束し、完成された仕事に対して報酬を支払うことを約束して成立することが「請負契約」である。
- ③ 残業時間は、令和 6 年 4 月より、年間 360 時間、月 45 時間を上限とすることとなった。
- ④ 部下となる技能者が建設業や組織外の実態に触れて視野拡大する機会を設けるようにすることが望ましい。

問 4

労働安全衛生法、労働安全衛生施行令、労働安全衛生規則に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 労働者のために、工程に関する計画及び作業場所における機械、設備等の配置計画の作成は、統括安全衛生責任者の職務である。
- ② 玉掛け技能講習を修了していない者が、つり上げ荷重 1 トン以上の移動式クレーンの玉掛け作業を行わせ、つり荷が周辺作業員に激突し災害発生した場合、労働安全衛生法違反は問われない。
- ③ コンクリート造の工作物、高さが 5m 以上の解体又は破壊の作業は、作業主任者を選任すべき作業である。
- ④ 移動はしごは、損傷、腐食なく丈夫な構造とし、幅 30 cm 以上のすべり止め、転位措置を講ずること。

問 5

労働安全衛生法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 事業者の行うべき調査等で、建設物、ガス、粉塵等による、又は作業行動、業務に起因する危険性、有害性を調査し、その結果に基づいて、厚生労働省令で定めるところにより、事業者、団体に対し指導、援助等を行うことができる。
- ② 労働者の健康を保持するため必要があると認めるときは、労働衛生指導医の意見に基づき厚生労働省令で定めるところにより、臨時の健康診断の実施その他必要な事項を示すことができる。
- ③ 危険又は有害な業務で、厚生労働省令で定めるものに労働者を就かせるときは、当該業務に関する安全、衛生のための特別の教育を行わなければならない。
- ④ 事業者は、クレーンの運転その他の業務で政令で定めるものについては、都道府県労働局の当該業務に係る免許を受けた者、又は技能講習を修了した者、厚生労働省令で定める資格を有する者でなければ、就かせてはならない。

問 6

元請負人の義務に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 元請負人が請負代金の出来形部分に対する支払を受けたときは、当該支払い対象となった建設工事を施工した下請負人に対して、出来形部分に相応する下請代金を当該支払を受けた日から 1 か月以内で、かつ、できる限り短い期間内に支払わなければならない。
- ② 元請負人は、下請負人が500 万円以上～5000 万円に満たない工事の見積を行う場合、7 日以上の間を設けなければならない。
- ③ 元請負人は、前払金の支払いを受けたときは、下請負人に対して資材の購入、労働者の募集その他建設工事の着手に必要な費用を前払金として支払うよう適切な配慮をしなければならない。
- ④ 元請負人は、下請負人の請け負った建設工事を確認した後、下請負人が申し出たときは、特約がなされている場合を除き、直ちに、目的物の引渡しを受けなければならない。

【道路法・道路交通法】

問 7

道路法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 令和 7 年改正において、道路の脱炭素化の推進や道路網の整備に関する基本理念が創設された。
- ② 道路管理者は、道路の構造を保全し、又は交通の危険を防止するため、区間を定めて、道路の通行を禁止し、又は制限することができる。
- ③ 重要物流道路では、構造上支障がないと認められた区間は、国際海上コンテナ車(40 フィート背高)の特殊車両通行許可手続きが不要となっている。
- ④ 都道府県公安委員会は、道路を常時良好な状態に保つように維持し、修繕し、もって一般交通に支障を及ぼさないように努めなければならない。

問 8

道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 公安委員会は、道路における危険を防止するため、交通の規制をすることができる。
- ② 公安委員会は、交通の安全と円滑を図るため、交通の規制をすることができる。
- ③ 公安委員会は、道路の構造を保全するため、交通の規制をすることができる。
- ④ 公安委員会は、交通公害を防止するため、交通の規制をすることができる。

【標識令改正・各種ガイドライン】

問 9

令和 6 年の標識令の改正で横断歩道標識設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 信号機のある横断歩道は横断歩道標識を省略できる。
- ② 単路部の横断歩道で、「横断歩道又は自転車横断帯あり(210)」の道路標示が設置されている場合は横断歩道標識を省略できる。
- ③ 交差点の入口に横断歩道がある場所の内側の横断歩道標識は省略できる。
- ④ 一時停止標識が設置されている横断歩道の横断歩道標識は省略できる。

問 10

令和 5 年の標識令の改正で特定小型原動機付自転車に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 原動機付自転車は、特定小型原動機付自転車と一般原動機付自転車に区分される。
- ② 特定小型原動機付自転車は、最高速度など一定の基準に該当するものは、「特例特定小型原動機付自転車」となる。
- ③ 特例特定小型原動機付自転車とは、最高速度 20km/h 以下、緑色灯を点灯している場合である。
- ④ 規制標示「専用通行帯(109 の 6)」等の意味について、「軽車両」とあるのを「特定小型原動機付自転車及び軽車両」に変更した。

問 11

安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 自転車ピクトグラムは、進行方向に対して左向きとし、進行方向を示す矢印との組み合わせを標準とする。
- ② 車道混在とは、自転車と自動車が生道内で混在通行する道路をいう。
- ③ 車道混在の場合、矢羽根型路面表示と自転車のピクトグラムを設置するものとする。
- ④ 法定外表示のピクトグラムは、車道混在のみに設置する。

問 12

施工計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工計画の作成では、発注者の要求する品質を確保するとともに、安全を最優先とした施工を基本とする。
- ② 施工管理は、品質・原価・工程・安全、環境保全に対する管理方法を総合的に計画し、工事を進めるための管理活動である。
- ③ 施工管理では、施工過程で品質が作り込まれるという特性を踏まえ、計画段階から品質確保のための管理を行うことが重要である。
- ④ 施工計画では、PDCA サイクルを適切に運用するため、当初の計画通り行うことが基本とされる。

問 13

作業手順書に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 作業手順書は、責任者が作業手順を徹底的に書き込み、自ら実践するためのものである。
- ② 作業手順書は、新入社員や未熟練作業員に安全で正確に早く教えるために必要なものである。
- ③ 作業手順書の作成上の留意点は、現場の実情に合ったもの、法令に違反していないこと等を留意する。
- ④ 作業手順書は、作業上の手戻り、不具合や作業中の事故・労働災害が発生した場合には、速やかに改善し、定期的に見直すことも必要である。

問 14

環境保全に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設工事に伴う生活環境の保全対策は、騒音規制法、振動規制法、水質汚濁防止法、大気汚染防止法等により規制されている。
- ② 振動規制法及び騒音規制法により、特定建設工事を施工する者は、作業開始する日の7日前までに、「特定建設作業実施届出書」を都道府県知事に届け出なければならない。
- ③ 工事の作業時間は影響の少ない時間帯とし、夜間、早朝の作業を避けるなど作業工程の設定を行う。
- ④ 登録基幹技能者は元請会社と協力して振動・騒音の発生抑制に努めなければならない。

問 15

工程管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① ガントチャートは達成度を示すため、各作業の必要日数や工期に影響する作業は分からない。
- ② ネットワーク式工程表は、出来高の累計を積み上げて工事全体の進捗を示す工程表である。
- ③ バーチャートは作業の流れが視覚的に分かるが、工期に影響する重要作業(クリティカルパス)は判断が難しい。
- ④ 出来高累計曲線(S字カーブ)は、予定と実績の差異を把握できるが、作業間の相互関係は分からない。

問 16

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 原価管理のスタートは、発注者と契約するために見積書を作成することである。
- ② 建設工事では、材料費、労務費、経費、外注費の 4 原価要素である。
- ③ 実行予算は工種や工程ごとに分類せず、工事全体を一括で取りまとめることで、発注や管理を簡素化できる。
- ④ 実行予算は、自らが施工するにあたり原価管理を行うために作成するものである。

問 17

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「実行予算」(工事予算ともいう)は、受注後に各種の具体的な施工計画を立て、その工事を実行するのに必要な費用をできるだけ精密に予測・算出して作成する。
- ② 土工事の見積では、土量は縦×横×深さで、土の積込み土量を計算するが、土量の変化率は留意する必要はない。
- ③ 予算実績管理は、実行予算と実績原価を比較しながら差異を把握し、目標利益を達成することが困難な場合は原価低減の活動を実行する。
- ④ 元請負人及び下請負人は、見積時から法定福利費を必要経費として適正に確保することが必要である。

【品質管理】

問 18

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 設計品質は「ねらいの品質」であり、設計段階で定められる。
- ② 性能規定とは、施工方法や使用材料を詳細に指定することで、求める品質を確実に実現することを目的としている。
- ③ 施工品質は、設計品質を施工の実態やコストを考慮し、無理なく実現できるように施工者が決定する。
- ④ 設計品質と施工品質は、設計者と施工者が別組織であることを前提としつつ、最終的な製品の品質確保に向けて内容が整合している必要がある。

【安全管理】

問 19

熱中症予防対策に関する記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 作業時間対策では、高温多湿の作業場所において連続作業の場合は作業時間を短縮する。
- ② 脱水症状は自覚症状以上に進行する場合がある。自覚症状に関わらず定期的な水分・塩分補給摂取を指導する。
- ③ 作業中の巡視においては、作業前・中・後に水分補給等の確認を行えば巡視は頻繁に行う必要は無い。
- ④ 梅雨から夏季へは熱への順化期間を設けることが望ましい。作業員は熱に順化していないことから注意する必要がある。

問 20

リスクアセスメントに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- ① リスクアセスメントの実施により、予防の安全管理や自主的な安全活動ができるようになる。
- ② リスクアセスメントを実施する時期は、足場や機械設備などの設置・変更時、作業標準や作業手順などの作成・変更時などの際に実施する。
- ③ リスクの大きさは、災害発生の可能性と災害の重大性を点数化して算出する。
- ④ リスクの低減措置を検討するにあたっては、
 - ① 個人用保護具の使用
 - ② 安全対策を講じる必要のある危険作業の廃止や変更、安全な施工方法への変更
 - ③ ガードや安全装置などの工学的な対策
 - ④ 立入禁止措置や教育訓練、共同作業などの管理的対策の順で検討する。

【路面標示の設置】

問 21

路面標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路標示は、交通の安全と円滑を確保するため、視認性・判読性を確保できる位置に設置する。
- ② 道路標示は、交通規制の内容を示すものであるため、道路管理者が設置を決定する。
- ③ 道路標示は、夜間の視認性を確保するため、反射性能を有する材料を用いることが原則である。
- ④ 道路標示は、標示の種類ごとに寸法・線幅・配置位置が細かく規定されており、これに従って施工する。

問 22

路面標示の種類に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「安全地帯」は指示標示である。
- ② 「進行方向」は指示標示である。
- ③ 「停止線」は指示標示である。
- ④ 「車道幅員の変更」は指示標示である。

問 23

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 車線幅員は、2.75m、3.00m、3.25m、3.50m(登坂車線、屈折車線及び変速車線を除き)の4段階と定めている。
- ② 道路構造令による車道構成諸元によると、第3種Ⅰ級(普通道路)の車線幅員は3.5mである。
- ③ 中央帯は、1本の線の場合は線の中心、複線(実線2本)の場合はその線間の中心から車線幅員をとる。
- ④ 「車道外側線」は、その線の外側から車線幅員をとる。

問 24

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 交差点部における設置計画においては、付加車線、特に右折車線は積極的に設置すべきである。
- ② 横断歩道がない交差点では停止線を設置することはできない。
- ③ 信号交差点では、原付、二輪車等の事故を防ぐために、二段停止線を設置することができる。
- ④ 「横断歩道」の設置は、歩行者を無用に迂回させることなく、流れがスムーズになるように設置する。

問 25

区画線に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 車道外側線は、道路幅員が狭い場合でも、車道端を明確にするため必ず設置する。
- ② 「車道中央線」(実線 1 本)の都市部の道路における標準値の幅は、0.20mである。
- ③ 一般に「車線境界線」には破線が用いられるが、道路の屈曲部等の追い越しを禁止することが交通安全上必要な箇所は実線とする。
- ④ 「車線境界線」(破線)の長さは、標識令の規定では、3.0m～10.0m である。

問 26

道路標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「駐停車禁止路側帯」の幅員は、原則として 1.5m 以上とし、道路又は交通の状況によりやむを得ないときは、0.5m 以上とするものとする。
- ② 「停止禁止部分」の規制は、道路標示のみを設置する。
- ③ 「転回禁止」を設ける場合は、道路標識に代えて道路標示のみで設置できる場合もある。
- ④ 「進路変更禁止」を設ける場合は、道路標示のみを設置する。

問 27

指示標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「自転車横断帯」を「横断歩道」と併設する場合は、原則として「自転車横断帯」を交差点の外側に設置する。
- ② 片側 2 車線以上の道路に「横断歩道又は自転車横断帯あり」を設ける場合、原則として車線ごとに設置する。
- ③ 横断歩道等の手前に一時停止規制がある等、歩行者等の通行を妨げるおそれがない場合は、道路標示「横断歩道又は自転車横断帯あり」を省略することができる。
- ④ 「横断歩道」の幅は、原則として 4m 以上とし、やむを得ず縮小する場合であっても 3m を限度とする。

【路面標示の材料・施工】

問 28

路面標示用塗料に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 加熱式塗料は、高速道路の車道中央線、車線境界線及び車道外側線及び積雪寒冷地に適する。
- ② 熔融式塗料は、車両による摩耗の多い停止線、曲線部及び交差点、摩耗の多い横断歩道などに適する。
- ③ 熔融式塗料は、石だたみ、レンガ舗装、仮舗装、オーバーレイが予定されている路面などに適する。
- ④ カラー(熔融)塗料の路面への固着機構は、アスファルト舗装の場合は、熔融結合である。

問 29

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)の適用に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① Ⅰ種 A(常温)塗料の低温安定性試験は塗膜の水分による膨れ、割れ、剥がれ、しわ、色の変化などに対する試験である。
- ② 常温及び加熱塗料の隠ぺい率試験では路面標示の色の鮮明度や視認性の低下程度を調べる。
- ③ Ⅰ種 A(常温)塗料の黄色塗料は、クロムが塗膜中に含まれているかを測定する試験が規定されている。
- ④ Ⅰ種 B(常温)塗料の耐アルカリ性試験は、セメントコンクリート舗装及び路面凍結防止剤のアルカリ性に対する塗膜の抵抗性を判定する試験である。

問 30

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 2種(加熱)塗料の耐摩耗性(100 回転当たりの摩耗減量 mg)は 500 以下でなければならない。
- ② 2種(加熱)塗料の低温造膜性試験は B のみに適用される試験である。
- ③ 2種 B(加熱)塗料のタイヤ付着性試験では概ね 10 分後にタイヤに付着しないことと規定されている。
- ④ 2種 A(加熱)の拡散反射率は、光学的な性能項目で路面標示の視認性、白い塗膜の明るさの程度を判定する重要要件である。

問 31

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 3 種 Ⅰ 号(熔融)塗料の塗料中のガラスビーズの含有量は、15%～18%に規定されている。
- ② 3 種(熔融)塗料の黄色度は、白色塗料の熔融加熱時における変色度合いを判定する基準になる。
- ③ 3 種(熔融)塗料の軟化点の高いものは、夏季塵土の付着が多く、車輪による圧延現象が生じる。
- ④ 3 種(熔融)塗料の塗料中の鉛の定量は 0.06 以下(質量分率%)に規定されている。

問 32

路面標示用塗料の視認性に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 一般的に夜間の視認性には、100mcd/m²・lxが必要とされている。
- ② 路面標示は太陽光や紫外線、風雨等による自然劣化と同時に車両等交通環境の影響で経時とともに視認性の機能が低下する。
- ③ 耐水性の高いガラスビーズは、表面に曇りが生じやすく、再帰反射効果に影響を与える。
- ④ 反射材料の材質、粒径範囲、屈折率、比重などの違いにより、湿潤時や乾燥時の条件下において再帰反射性能に変化が生じる。

問 33

路面標示用ガラスビーズに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 乾燥時においてガラスビーズの屈折率が 2.0 より大きくなると再帰反射性能は低下する。
- ② 高屈折率ガラスビーズは特殊なチタン・バリウム系ガラスが用いられ JIS R 3301:2014 に規定されている。
- ③ 屈折率 1.9 のガラスビーズは屈折率 1.5 のガラスビーズに比べ晴天時や雨天時においても高い視認性が得られる。
- ④ 反射エレメントは、コア材の表層に屈折率 2.2 以上の微細な高屈折率ガラスビーズを固着している。

問 34

路面標示塗料(JIS K 5665:2018)の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① エアレススプレーは塗料自体に圧力を加え圧送し、小口径のノズル孔より高圧噴射しパターンの広がりを形成するものである。
- ② スリット式は、塗装中にスリット金型が常に路面の凸部に乗ることになり、平均塗膜厚は設計塗膜圧を上回る。
- ③ 熔融式工法では道路に塗装した後、約 5 分以内に交通開放できる速乾性を要求される。
- ④ 反射輝度及び視認可能距離などに関する規格はないが、100m 手前から見えることが望ましい。

問 35

路面標示の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 3種(熔融)式施工で発生する小さな膨れやピンホールなどは、路面の小孔から水蒸気が上昇することなどが原因と考えられる。
- ② 熔融式工法でのプライマーの塗布量は、多すぎても不足しても接着力を弱める。
- ③ 熔融式工法にはスリット式、噴射式、フローコーター式があり、路面標示の種類、施工量、施工場所などの条件に応じて工法を選択する。
- ④ 排水性舗装の空隙確保のために、熔融式工法ではスリット式が用いられている。

【路面標示の維持管理・塗り替え基準】

問 36

路面標示の消去に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 物理的消去には、水圧(ウォータージェット)法、切削法、ブラスト法などがある。
- ② 水圧(ウォータージェット)法は、消去スピードが速いが路面損傷が大きいため、適応できる路面標示の種類が限られる。
- ③ 切削法は、カッターとピンの打撃と引っかきにより塗膜を切削する。消去効果は大きいが路面を傷める。
- ④ ブラスト法は、適当な吹付粒子を用いれば路面をほとんど損傷することなく消去できるが、設備が比較的大型で使用した鋼粒などの回収に時間と労力を要する。

問 37

路面標示の点検に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 点検の第一の目的は、管理する路面標示の変状をできるだけ早期に発見することである。
- ② 点検項目として、①剥離、汚れなどによる不鮮明部分の有無、②摩耗による不鮮明部分の有無、③夜間視認性の有無が主な対象である。
- ③ 色差の測定は、道路標示白色色見本との色差 ΔE を測定する。
- ④ 現在の点検は、各管理者の日常点検や定期点検等により実施され、点検結果も各管理者が目視で評価しているのが現状である。

問 38

路面標示の塗り替え基準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 剥離率の測定は、摩耗、剥離、劣化等による塗膜の欠損部分の割合を、全体画像から測定する。
- ② 目視評価ランク 3 は摩耗の進行と若干の剥離が見られるが、標示全体の形状は維持されており、経時による劣化がわずかにみられる状態である。
- ③ 排水性舗装を代表とする空隙率が高い舗装の場合は、路面標示摩耗の進行が速い。
- ④ 路面標示の摩耗は「交通量別」「舗装種類別」「大型車混入率」等に関連する。

問 39

法定外表示等に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 法定外表示は無秩序に設置された場合には、道路標識等の整備効果を低下させるおそれがある。
- ② 法定外表示を設置する場合は、様式の統一化を図り、適正な交通管理を行うこととする。
- ③ 法定外表示は、道路の状況を勘案し、交通の安全と円滑化を目的とし設置される。
- ④ 法定外表示は、歩行者及び車両等の運転者が一見してその意味するところが理解できるものであり、道路標識等の様式と類似の形態とする。

問 40

法定外表示等に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「普通自転車専用通行帯」のカラー舗装は、原則青色で設置する。
- ② 歩行者保護のためのカラー舗装は、小学校周辺及び生活道路関連が対象である。
- ③ 「進路変更禁止」の注意喚起表示は、進路変更禁止の規制区間の手前の車両通行帯境界線のペイント等がない部分に設置し、色は白色とする。
- ④ 「ドットライン表示」は、優先関係が明確でない交差点部には設置しない。

問題は以上です

登録標識・路面標示基幹技能者講習 解答用紙

点

受講 番号		氏名	
----------	--	----	--

【基幹技能者一般知識】				【建設業法・安衛法】		【道路法・道路交通法】		
1	2	3	4	5	6	7	8	
3	2	1	2	1	2	4	3	/8

【標識令沿革・ガイドライン】			【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】				
9	10	11	12	13	14	15	
2	3	4	4	1	2	2	/7

【原価管理】		【品質管理】	【安全管理】		共通 合計	
16	17	18	19	20		
3	2	2	3	4		
					/5	/20

【路面標示の設置】						
21	22	23	24	25	26	27
2	4	4	3	1	1	1

【道路標示の材料】					【道路標示の施工】				
28	29	30	31	32	33	34	35	36	
3	1	2	3	3	2	3	4	2	/9

【維持管理・塗り替え基準】		【法定外表示の設置等】		専門 合計	
37	38	39	40		
3	2	4	3		
				/4	/20